創年大学ってどんなところ

秋祭りを企画した創年大学ってどんなところ？

その疑問を解くため市の生涯学習課の三堂地陽一さんと増渕直嗣さんにお話を聞きました。

◆いつ開校したのですか？

平成十八年に矢板市の生涯学習推進計画に基づき開講しました。

正式名は「矢板市ふるさと創年大学」で松戸の聖徳大学の支援を得て十二月にスタートしました。

矢板市教育委員会生涯学習課が事務局となり、年間数回の講演会や、現地に足を運び、テーマ別の学習を行い、数人のグループに分かれて研究、実践しています。

◆入学の条件はありますか？

高校生以上の矢板市民か矢板に通学または通勤している人なら誰でも入学できます。今年度は三十人が入学され、平均年齢約六十五才の方が学んでいます。

◆開講の趣旨は？

地域づくりを考える人たちに学びの場と実践の場を提供することです。地域活動のリーダーやコーディネーターになっていただくことが目的です。

◆今までどんなことを学び実践しました？

伝え残したい年中行事を調査し「矢板市の歳時記」にまとめたり、内川沿いを実際に歩き「内川ぶらぶら散歩道マップ」を作成しました。

今年は開講六年目で、四回の講演会や生涯学習フォーラムに参加、修学（集楽）旅行として東京へコミュニティづくりフォーラム参加を兼ねての観光をしました。また、地域の子どもたちにも楽しんでもらえるよう秋祭りを企画しました。

◆これからの計画

今までは矢板のことを研究、調査することを重点に学習し、実地調査を中心にしてきましたが、来年以降は、それを発展・充実させ市民にもその内容を広め、地域活動の中に生かすようにしたいと考えています。矢板のことを知ってもらうために「矢板検定試験」をテキストとして学校などで使っていただくよう準備をしています。

◆創年ってどんな意味？

生涯にわたって生きがいを持ち、自らの知恵や能力を地域に生かすなど、積極的な生き方を主張し実践する人々のことと意味付けしています。（M）

おためしの家を使っての授業風景

内川沿いを歩く創年大学生

りんごの里にサンマのかおりが…

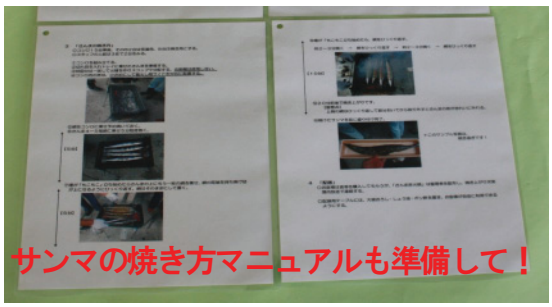
今年の創年大学は被災地支援ということで、大船渡のサンマを炭火で焼いて販売しました。

初めての試みで、練習では黒焦げにした魚もだいぶありました。それを踏まえ、仕込みの段階から、炭の火加減、魚の並べ方、焼き時間、網を返すタイミングなど、細かなマニュアル作りをし、それぞれが、同じ手順で上手に焼けるよう本番に臨みました。ところが、魚を網から外すときに皮が剥がれ、見栄えが悪くなったり、剥がすのに時間がかかるという問題が出てきました。それもみんなで工夫し、焼いていくごとに腕もあがり、美味しい焼きサンマを販売することができました。

たくさんのサンマを扱い、生臭くなった手やエプロンを気にする暇もなく、無事終了出来たことにほっとしています。

各団体が力を合わせ、秋祭りを盛り上げようと、会議を重ね、前日の準備、当日と頑張りました。

市内各地域での行事が重なり、昨年より人出が少なかったのが残念でしたが、これからも秋祭りが長く続けられるといいなと思います。（K）



サンマの焼き方マニュアルも準備して！